

さくら さく さくら ちる



街の色が淡いさくら色に染まるこの季節
満開になったさくらがさくら吹雪なり、心もざわついてしまいます。仲間たち（利用者さん）にもウキウキ感が見られこの時期特有の雰囲気を感じます。

4月は「歓送迎」
ゆくひと・くるひと
別れと出会いがありますはぐるまを去られる方の新天地での活躍をお祈りし、これから共に歩んでいく仲間や職員と、活気ある生活が送れるよう、一同力を合わせていきますのでどうぞよろしく
お願い致します。

はぐるま

新しい仲間を迎えました！



川野 羽音 (かわの はねと)

神奈川県立 高津養護学校・高等部
2017(平成29)年卒業

たかつようごがっこうを
そつぎようした
川野羽音です。
はぐるま工房では
くすねんをがんばりたい
とおもいます。
よろしくおながいします。

小泉さん代筆



戸栗 遼平 (とぐり りょうへい) 君

茨城県立 刈谷学付属 特別支援学校
2017(平成29)年卒業

ケケ波大附 戸栗大城
特別支援学校を六十業
した。戸栗遼平です。
はぐるま工房では
やさしいっけいとりた
いです。たいひはこび
やりました。学校の先
生にやさしいをへんも
いうのがたのしみです。

かわの はおとさん
とぐり りょうへいさんは
はぐるま工房にはいました。
これからよろしく！！

No.99
2017年4月21日
社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会
川崎市多摩区
菅馬場 1-18-17
TEL 044-946-1308

第64回 理事会・評議委員会報告
平成29年度事業計画

作業所（生活介護事業）

新年度は、若い2名の仲間を迎え、48名でのスタートとなります。
これまで積み重ねてきた経験を活かし、主力製品のフキン・野菜・ハーブの生産量のアップに加えて、新たに食品加工商品の開発（パン・お菓子製造）にチャレンジをします。

4つの作業所の長を出した作業で、仲間たちが精一杯労働に取り組む、活力あふれる、魅力ある作業所を目指します。

グループホーム（共同生活援助事業）

仲間たちが高齢を迎えても、地域で安心して暮らせる環境（施設整備・職員育成・地域生活の促進）を整備すると共に、仲間たちの生活ニーズに応えるための多様なホーム体制のあり方を検証していきます。

ヘルパーステーションみんと

事業所内の外出希望待機者の解消、同時に外部からの依頼に対応できる体制を整備し、利用者の自己決定の尊重、職員

研修の充実、他の事業所との連携の模索をしていきます。

相談支援事業

休止中の「はぐるま支援センター」を管理者 小畑
相談支援専門員 岡田
の体制にて平成29年6月より再開いたします。

シリーズ

【地域共生社会を考える】

厚生労働省から「地域共生社会」という福祉の方向性が出され、今後、さまざまな改革が進むと思われます。

一見すると、高齢者・子ども・障害者・生活貧困者が地域とともに暮らしている社会という、とても受けの良い言葉で理念・方針が並んでいます。法整備や実現可能な手立てに関しては、まだ危うさを感じずにはいられません。

しかしながら、共生社会は望むところではありませんし、はぐるまの会が実現する手立てを講じていくのは、法人としての役割であると考えます。

同省で行われている「介護保険制度の見直し」の柱の一つとして、地域づくりの今後の方向性が示されています。自分が暮らす地域への主体的・積極的な取り組みを促し、住民による課題解決の経験の積み重ねが暮らしやすい地域づくりにつながるとしています（「我が事」の意識の成熟）。次に、生活上の課題を介護・子育て・障害・病気等から、住まい、就労、家計、孤立等に及ぶものと捉え、暮らしと仕事を「丸ごと」支えることを目指しています。そして、地域の持つ力と公的な支援体制が協働することで安心して暮らせる地域が生まれるとしています。

「我が事」「丸ごと」と意味づけがぼんやりとしている言葉が並ぶことに違和感を覚えつつも、行政が地域と協働しようとする未来には期待を抱きます。このような視点で方向性を導いている背景の一つには、社会的孤立・社会的排除がおきているとの現状認識があるようです。社会的排除を克服した姿が社会的包摂であり、その実現が福祉の持つ目標の一つなのではないでしょうか。

様々な福祉施策の決定や制度の見直しは社会的包摂の実現に向かっていくのか、

そのような視点で少しずつでも社会の動向に目を向けていきたいと思えます。

(次号へ続く… 新井)

【はぐるま太鼓クラブ】

「太鼓をやりたい！」との仲間のひと言からはじまった、はぐるまの太鼓クラブも3年目を迎えます。地元で活躍をされている「和太鼓里空(りくう)」の皆様の全面的なご協力により、毎月1回、川崎北部市場の会場をお借りし、年間を通して練習を実施中しています。

今年目標は、11月3日(祝)のはぐるま稗原農園収穫祭での複数の曲目の発表です。先日の太鼓クラブでは、基礎打ち練習から新曲までをタツプリと打ち込み、約1時間半の練習時間があったという間に過ぎてしまいました。参加している仲間の表情も真剣そのものです。



【商品開発プロジェクト始動】

新年度から、はぐるま共同作業所(通称 第1作業所)の調理室(菓子製造業営業許可所有)を活用した新商品の開発に着手します。

小さなお店で少しずつファンが増えてきている焼き立てパンの販売に加え、新たな看板商品の開発を目指します。

プロジェクトでは、仲間たちの強力な応援であるビストロカプリシユの菊池シェフの指導のもと、はぐるまの資源「仲間たち・農作物」を生かした高品質な商品の開発を行います。

また、ご当地メニューの開発としての狙いから、地域の大学の福祉学科等との連携をしたオリジナル商品の開発を目指します！



イチゴのチーズケーキ!?



平成29年度 新任職員の紹介



所属 はぐるま共同作業所
おぎ たいへい
小城 泰平

私はこれまで障害のある方の就労支援に関する仕事に就いてきましたが、昨年までは、川崎市の職員として、「就労支援」や「工賃向上」の仕組みづくりの仕事を行ってきました。これまでの職業経験を、はぐるまの会で活かしていきたいと思えます！



所属 はぐるま工房
さいとう あやな
斉藤 彩菜

3月に大学を卒業し、4月からはぐるまの会に就職しました。斉藤彩菜です。大学では社会福

社を専攻し、特に地域福祉について学んできました。仲間と共に地域で生きていくとは何か考えていきたいです。



看護師

みずたに あきこ
水谷 明子

看護師の水谷と申します。施設での勤務は初めてですので、これから学ばなければならぬところが沢山ありますが、利用者さんのお役に立てるように努力していきます。皆様、宜しくお願ひ致します。

非常勤職員

高橋 美和 (第2作業所)

井谷 巧 (第1ホーム)

大谷 広子 (第4ホーム)

高橋 姿子 (第2ホーム・みんと)

※紹介文は、次号にて…

仲間自治会報告

仲間編成について

今、仲間事務局では、職員会と一緒に、作業所編成に取り組んでいます。

まずは、各作業所の仲間会議で、

- ・第一作業所がパン作りに集中して取り組む
- ・菅工舎にミシンを集合させて、ふきんやエプロンの縫製を一手に引き受ける。ことを説明し、みんなのやりたい仕事を聞きました。

「今とは違うところに通って、もつといろいろな仕事を経験したい」「いやいや、今迄通るところで頑張り続けたい」・・・などなど、

仲間たちの意見を事務局仲間が持ち寄り、大会議室のホワイトボードに仲間の名前を書き出していきました。「第一作に行っても、パン食べるんじゃないよ、作るんだよ！って言ったんだけど…」「花ハウスは、手をきれいに洗って、しっかり挨拶できないと、お客さん帰っちゃうよ」と事務局さんも説明に苦労したようでした。

結果、第一作に12人、第二作に13人、工房に14人、菅工舎に10人の仲間が希望していることがわかりました。

各作業所に班長仲間がいないと、班作りができないので、希望している仲間の中の班長の数も調べたところ、第一作は3人、第二作は5人、工房は5人、菅工舎は4人の班長がいました。心配していたほど、班長の偏りはなかったようです。

次に、心配なところがある仲間や、考えを変えてほしい仲間がいるかを話し合いました。

「今覚え始めたばかりの作業があるから、もう少し頑張ってから、移動したほうがいいんじゃないか」「どうしても喧嘩になってしまう仲間がいると、落ち着いて仕事ができないから、仲間関係を一番に考えたほうがいい」「ずっとこの作業所にいるから、他の仕事もやってみるといい」「この仲間が在庫管理も仕事の分担もやっている、いないと仕事が回らない」など、毎日一緒に過ごしている仲間のことについて、的確な意見が出せている印象でした。

反面、今の事務局の苦手分野は客観的な自己評価。自分のことになると、「だってこの仕事やりたいたいから」の一点張りになってしまういます。

職員会では、仲間一人一人の労働の力と課題を約一カ月かけて分析し、職員会としての作業所編成案を出しました。希望と違っていただけ「是非この作業所に来て力を発揮してほしい」という仲間が約半数の二十五人いました。

六月の評価式に向けて、各作業所の仲間たちは「仕事のまとめ」に取り組んでいます。できるようなったこと、これから取り組みたいことを出し合いながら、全員で「新しい作業所の仲間作りと労働」に意欲的に向かっていきたいと思えます。(仲間自治会担当 小畑美帆)